



「気持ちも新たに誓いのことば」

1月10日に行われた、第68回弟子屈町成人式での1コマです。新成人を代表して、渡邊雅仁さんと高田穂乃香さんが『誓いのことば』を述べました。

(関連記事37ページ)

Public relations magazine

2016.2

No.738

てしかが

主な内容

- 確定申告に行こう！……………②
- てしかがまち・ひと・しごと創生戦略を策定…⑥
- 春の総合健診の申し込みを受け付け…⑧
- 第79号町議会だより第4回定例会…⑭
- マイナンバー制度がスタートしました…⑲
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑳

むかしむか史 (304)

てしかが歴史写真館 178



鳥居の周りでスキーを楽しむ人たち

町の歴史を見続けてきた山

皆さんは、この写真の撮影場所が分かりますか？

後方に写っている噴煙がヒントになるかと思いますが、正解はアトサヌプリ(硫黄山)とマクワレンチサップ(かぶと山)との谷間です。雪のない時期につつじヶ原自然探勝路を歩くと見られますが、流出した白っぽい土砂が一面を覆っている辺りです。確かに、なだらかな斜面が広がっていて、スキー場としては最適です。

阿寒国立公園史をひもといてみると「1931(昭和6)年1月18日 硫黄山で釧路スキー協会の発足式」という記述が残っています。昭和初期には、釧路地方のスキーのメッカだったそうです。

さらに注目していただきたいのは、写真の中央。鳥居らしきものが見えませんか？

正真正銘の鳥居です。祭られたのは、各地の鉱山に見られる山神の系統で大山祇大神(オオヤマヅミノオオカミ)といい、現在は川湯駅前市街の一角に移されている大山神社です。1981(昭和56)年に発行された弟子屈町史には「硫黄砒山の繁栄と創業の安全を祈願するための存在で、かつての盛時をしのばせるものがある」と記されています。

現在は立ち入り可能区域が制限されていますが、硫黄の採掘から始まり、川湯温泉開湯の礎となり、人々に親しまれてきたこの山は、明治以降のわが町の歩みには欠かせない存在です。

てしかが郷土研究会(斎藤)

てしかが 2016.2

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696 〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています